令和５年度　学校評価表

【学校教育目標】みんなの人権を尊重し、互いの考えを伝えて認め合いながら、主体的に話し合い、学び合うことができる生徒の育成

分掌区分	経営目標 担当	中期目標	短期目標	達成のための手立て（具体的な実施内容）	重点項目番号	評価指標	目標値	アンケート結果（肯定的回答の割合）※生徒、保護者の〇数字はアンケート質問番号 職員	生徒		保護者		評価	結果と評価の説明	学校関係者評価 学校評議員のコメント	改善計画 改善策
総務部	総務部・管理・庶務部	今日の教育課題の解決に向けた学校経営	働き方改革の推進 業務の効率化	・エクセルを活用した情報共有システムの活用 ・計画的な年休取得の促進 ・SSSの活用	1	業務の効率化が実感できた割合	80%	86%					A	・エクセルを活用した日報の共有、生徒指導情報の共有ができた。また、職員会議のペーパーレス化やスクールサポートスタッフの活用により業務負担が軽減できた。 ・ICT活用が一部の職員に偏り、業務負担になっているため、ICT研修実施の必要がある。	・ペーパーレス化やスクールサポートスタッフの活用を継続されていくとよい。	・ICT活用が一部の職員に負担とならないよう、全職員が活用できるように使い方マニュアルを作成したり、研修を行ったりする。
					1	4月～12月に年休3日以上を取得した職員の割合	80%	86%					A	・職場として休暇を申請しやすい雰囲気があり、肯定的回答の目標値は達成できた。 ・時間外勤務については個人差が大きかった。1カ月の時間外勤務時間の職員全体の平均は約50時間であった。	・年休取得については年間5日以上となるようにしていくとよい。	・年休取得については年間5日以上となるように促していく。各校務分掌の人数を見直しなども検討し、職員の業務平準化につなげていく。
			ICTや広報誌等の活用。適時的、効果的な情報提供	・すぐーるを活用した保護者連絡・HPの更新、便りの発行、行事等の迅速な情報提供	2	適時的、効果的に情報提供がなされていると思う割合	80%	81%			② 73%		B	・すぐーるの活用、定期的な学校便りの発行、HPの更新は良好であった。 ・保護者の数値が73%であり、目標値を達成できなかった。通信の発行が全く見られないところがあったことや、保護者への通知文書が遅いところがあったことが影響したためと考える。	・内容を端的に伝える書き方、文字の大きさ、行間など、相手への配慮のある文書を発信していくとよい。 ・部活動改革、働き方改革等の情報発信も今後は必要かもしれない。	・学期始めには、学年通信、学級通信の発行をする。また、分かりやすい情報発信を意識して行う。
教務部	キャリア	新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程の編成と学習指導の充実	キャリアパスポートの活用 計画的、系統的な進路学習	・キャリアパスポートの見直し ・職場体験活動の実施 （事前・事後学習の充実）	3	・次の学習や生活への意欲につながったと感じる割合 ・自分の進路に対する考え方を広げることができたと感じる割合	80%	90%	⑧ 80%				B	・各学年の進路学習や進路説明会により、生徒の進路に対する意識を高めることができた。キャリアパスポートの見直しはできなかったが、様々な学校行事を通し、学年ごとに効果的な活用ができた。	・職員と生徒の数値に差があるのは、本格的な進路学習のスタートが3学期であったためか。学校の意図が生徒たちに伝わっていなかったためか。	・全学年とも、年度当初にキャリア教育担当と総合的な学習の時間担当を中心に話し合い、計画的に取り組み、職員や生徒の意識を高めていきたい。
	ふるさと		地域教材を利用した授業づくり・職場体験学習の連携、推進	・まちづくりセンターとの連携、協力 ・市内の「ひと・こと・もの」の有効活用	4	ふるさと「浜田」について、新たな気づきがあったという生徒の割合	75%	95%	⑦ 91%		④ 76%	⑤ 75%	A	・肯定的回答が目標値を上回り、地域のひと・もの・ことが活用できたのではないかと振り返る。 ・教科によっては取り組みやすい内容があるので、今後も活用を継続していきたいと考える。	・保護者の経年比較では、数値が上がっている。	・生徒の実態や各教科の学習内容を踏まえ、実態に即した形で今年度の取組を継続して行っていく。
	ＧＩＧＡ		授業おける各機器の活用 タブレットの家庭での活用 授業研究での各機器の活用	・教職員への研修の実施 ・家庭で使用するための持ち帰り規定の作成	5	・授業内でタブレットを使用した割合。 ・家庭へ持ち帰って使用した割合。	70%	71%	⑥ 85%				A	・タブレットの利用を推進するために校内での研修が不十分であったと考える。必要に応じて何ができるのかを教職員間での周知が必要であると考える。 ・持ち帰りや利用頻度は昨年より増したが、学年により差が大きかった。	・タブレットを持ち帰る際に、家庭での電源など環境設定の問題が大きいのではないか。大人と同じように使用できる環境設定にしてはどうか。	・大人と同じように使用できるようになってしまうことで起きうる問題点も検討するべきであると思う。環境設定に関しては教育委員会に相談したいと考える。
生徒指導部	生徒指導	豊かな人間性とコミュニケーション力の育成	個に応じた支援の工夫と組織的な対応の継続	問題の早期発見・対応・活用のために ・定期的な情報交換 ・学校生活に関わるアンケートの実施 ・スクールカウンセラーの活用 ・関係機関の活用	6	困ったことが解消されたと思う割合	80%	95%			⑨ 75%		B	・職員会の担任からの定時連絡の際の担任からの連絡もICTを用いた共有をするべきである。 ・今年度不登校生徒の情報交換会は開催できていない。理由として、木曜日に行事や担任・管理職の出張と重なることが多く、時間を設けることができなかった。不登校生徒の情報交換や新しい知見を得るためにも日程などの抜本的な見直しを図り行う必要がある。	・職員間における情報共有をしっかりと行い、子どもへの丁寧な関わりを継続していくとよい。	情報共有のためには、生徒指導部内から積極的な情報共有を進めていく必要があると考えるので、部会等を弾力的に運用していきたいと考える。
			基本的な生活習慣の育成 ・あいさつ、返事、服装 ・公共ルール、マナー	生徒会執行部と連携した指導	7	生徒会執行部と連携した指導を通して、基本的な生活習慣が身についたと思う割合	80%	90%	⑩ 95%	⑪ 95%	⑫ 69%		A	生徒の捉えとしては、比較的できている様子であったが、生徒指導部の捉えとしては活性化されていないとの見方も出た。そのため、挨拶の呼びかけを引き続きするとともに、挨拶やマナーの見直しを行う必要がある。そのため、教員間の指導の差が埋まるように共通理解を図る。	・校舎が大変きれいである。授業の様子を見ると、子どもたちがとても落ち着いていることが分かる。掃除もあいさつも大変よい。保護者の数値が低いのは学校での子どもの様子が見えないからではないか。	・職員間での指導の差を埋めていき、学校での様子をいつ見て頂いても良いように引き続き働きかけをしていきたいと考える。
			対話による人間関係作り ・教育相談 ・生活ノート	・教育相談や生活ノートへの誠実な対応 ・日常的な教員からの声掛け	8	一人一人が大切にされていると感じる割合	80%	95%	⑲ 90%		⑧ 65%		A	一人一人のニーズに対応する事ができるように、学校生活アンケートの項目を検討し、生徒の困り感などが反映することができるアンケートへと検討を行う必要がある。また、早期発見だけではなく、未然防止について行う集会など、意義の共通理解を図る。	・生活ノートへのコメントや教育相談など、職員が丁寧に子どもに関わっている取組みを今後も継続していくとよい。	取組が更に充実したものになるように、教職員間での取組の意義の共通理解を頻繁に図りたいと考える。
	保健安全	感染症対策	感染症対策と健康管理	・環境の整備（換気・掃除） ・給食前の手洗い・消毒 ・健康観察と体調不良者の早期対応	9	生徒が実践できていると考える割合	80%	100%	⑭ 87%				A	・感染症対策では、インフルエンザとコロナの流行があったが、職員評価が100%と高く、実践できている生徒の割合も高かった。今後も通常の学校生活と感染症対策を両立しながら、感染拡大が抑えられるよう予防に努めたい。 ・健康観察と体調不良者への対応は、担任・学年部と連携し、早めに対応できた。	・各教室とも、窓が3か所空けてあり、換気がしっかりされていて大変よい。	・感染症対策では、地域の流行状況を把握し、早期対応、流行の拡大が抑えられるよう、生徒、職員の意識を高め、継続して取り組む。
研究部	人権・同和教育	互いの権利や立場の尊重	人権講演会、研修会の工夫 生徒の意識、態度の育成	・人権に関する最新の情報を取り入れた職員研修・講演会を充実させる。 ・生徒会主催の人権集会を実施し、人権課題に主体的にかかわろうとする態度を育む	10	人権に関して意識が高まったと思う割合	80%	95%	② 98%		⑬ 69%		A	・職員研修⇒事前学習⇒人権集会の流れで、学校全体でねらいを確認して実施することができたが、地域・保護者への周知が不十分だった上、平日開催であったため。また、思いやりのある言動には結びついていないという現状があるため。 ・生徒会が活躍する場の設定ができなかった。	・人権集会への保護者の参加もあれば、保護者の数値が上がったかもしれない。保護者の経年比較としては上がっている。	・人権集会の計画を早い段階で行い、その事前・事後の学習の計画・実践をすること。また、保護者や地域への案内を様々な方法で行う。
	学力育成	主体的に学ぶことができる生徒の育成	話し合い、表現活動の充実	・各教科で計画的に話し合い活動を取り入れる ・話し合い活動時のポイントを意識させながら活動に取り組ませる	11	・話し合い活動を通して自分の考えを深めることができたと感じる割合 ・話し合い活動で自分の意見を表現することができたと感じる割合	80%	95%	④ 94%				A	・各教科や様々な活動において、話合い活動の充実を図るように取り組んできている成果であると思われる。 ・今後も継続して取り組むことで生徒たちの表現力を高めていきたい。	・今年度は研究大会での発表もあり、各教科での話し合い活動が充実していたと思われるので、この取組みを継続していくとよい。	・全国学力調査や県学力調査の結果においても、話合い活動の充実を図る取組の成果が見られた。生徒たちの思考や理解が深まるような議論にできるような手立てを考え、今後も実践していきたい。
			家庭学習の充実 定期テスト期間の学習状況の記録と振り返り	・自主学習ノートを充実させる ・テスト計画表の活用	12	自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことができたと感じる割合	80%	86%	⑤ 66%		⑦ 50%		B	・「計画的な学習」は、テスト期間に絞って質問をすると肯定的な回答がもっと増えたのではないかと思われる。（普段の家庭学習については、「計画的に学習している」と答えることは難しいのではないか。） ・自主学習ノートに取り組む内容について何をすれば良いのかわからない生徒が多いのではないか。	・キャリア教育を軸にして意欲を高めていくとよい。普段の学習と将来をつなげてやること、夢や目的をもたせ、社会や大人の姿を見せてやることが学ぶ意欲につながるのではないか。	・職場体験学習の様子を見ていると、実際に働く人たちと関わることの意義が強く感じられる。そういった面からも、今の学びと将来の仕事のつながりを感じられるような機会を増やすことも考えていきたい。